

2013 年度の PIO-NET にみる危害・危険情報の概要

この概要は、PIO-NET^(注1)により収集した 2013 年度の「危害・危険情報」^(注2)をまとめたものである。

当該情報の詳細については、「消費生活年報 2014」（2014 年 10 月発行予定）に掲載する予定である。

2013 年度の傾向と特徴

- ・「危害・危険情報」は 20,603 件で、対前年度比で見ると 39.5%増で、過去最多の件数である。
- ・「危害情報」は 13,700 件であり、上位 3 商品・役務は「化粧品」、「調理食品」、「医療サービス」である。「危険情報」は 6,903 件であり、上位 3 商品・役務は「調理食品」、「四輪自動車」、「菓子類」である。
- ・「危害情報」の約 3,100 件の増加については、前年度同様 1 位の「化粧品」が、自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するもの（437 件）^(注3)などにより約 900 件増加したことや、前年度 8 位の「調理食品」が、冷凍食品への農薬（マラチオン^(注4)）混入事案に関するもの（965 件）などにより約 1,100 件増加したことが大きく影響している。
- ・「危険情報」の約 2,700 件の増加については、前年度 2 位の「調理食品」が、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの（2,211 件）などにより約 2,300 件増加したことが大きく影響している。

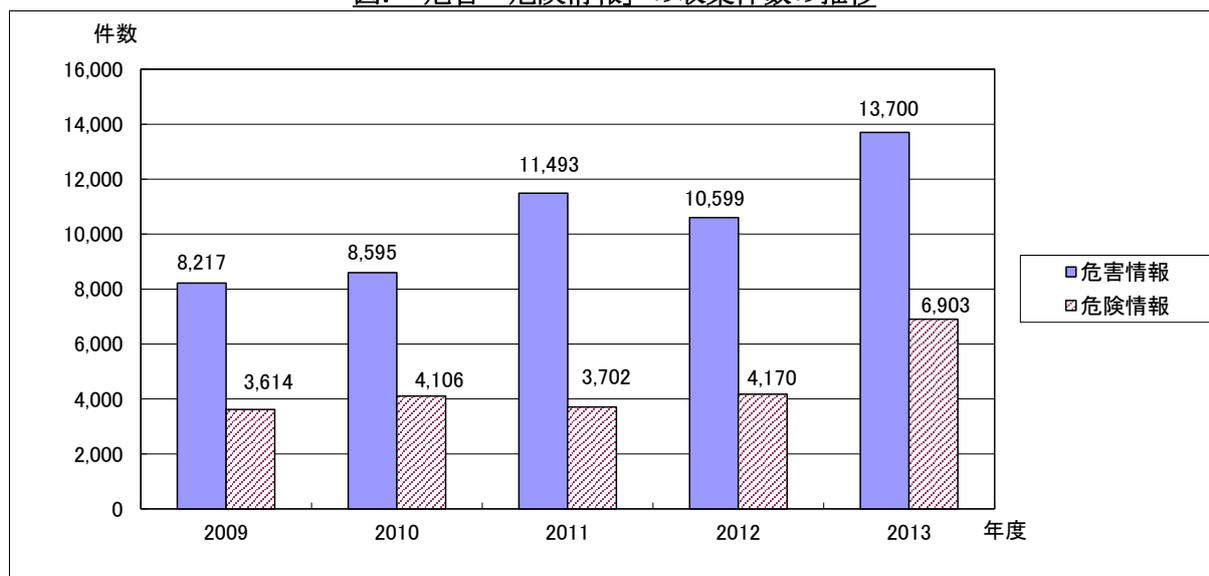
(注 1) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注 2) 「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」）と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2014 年 5 月末日までの登録分。なお、2007 年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いている。

(注 3) データは消費者庁が独自に精査したもの。

(注 4) マラチオンは、有機リン系の殺虫剤であり、中毒症状としては吐き気・おう吐・唾液分泌過多、発汗過多、下痢、腹痛、軽い縮瞳等が知られている。（厚生労働省ホームページ「農薬（マラチオン）を検出した冷凍食品の自主回収について」<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000034127.html> より）

図. 「危害・危険情報」の収集件数の推移



(注5)データは2014年5月末日までの登録分。2007年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いている。

1. 「危害情報」の概要

2013年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は13,700件である(2012年度:10,599件)。

(1) 商品等分類別件数

商品等分類別にみると、1位は「保健衛生品」(「化粧品」、「医薬品類」など)3,271件(23.9%)、2位は「食料品」(「調理食品」、「健康食品」、「飲料」、「菓子類」など)3,138件(22.9%)、3位は「保健・福祉サービス」(「医療サービス」、「エステティックサービス」、「歯科治療」、「美容院」など)3,073件(22.4%)、4位は「住居品」(「洗濯用洗剤」、「家具類」、「ふとん類」など)1,306件(9.5%)、5位は「他のサービス」(「外食」など)585件(4.3%)である。(表1)

具体的に商品・役務別にみると、1位は「化粧品」2,313件(16.9%)であり、前年度(1位、1,405件)と同じ順位であるが、自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するもの437件などにより、908件増加している。2位は「調理食品」1,407件(10.3%)であり、冷凍食品への農薬(マラチオン)混入事案に関するもの965件などにより、前年度(8位、314件)から1,093件増加し、順位も大きく上昇している。3位は「医療サービス」1,056件(7.7%)、4位は「エステティックサービス」661件(4.8%)、5位は「健康食品」655件(4.8%)である。(表2)

表1. 「危害情報」の商品等分類別の上位5位の推移

順位	2011年度		2012年度		2013年度	
	商品等分類	件数	商品等分類	件数	商品等分類	件数
1	保健衛生品	4,180	保健・福祉サービス	2,844	保健衛生品	3,271
2	保健・福祉サービス	2,389	保健衛生品	2,277	食料品	3,138
3	食料品	1,601	食料品	1,792	保健・福祉サービス	3,073
4	住居品	869	住居品	1,002	住居品	1,306
5	他のサービス	530	他のサービス	563	他のサービス	585

表2. 「危害情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2011年度			2012年度			2013年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	化粧品	3,447	30.0	化粧品	1,405	13.3	化粧品	2,313	16.9
2	医療サービス	728	6.3	医療サービス	850	8.0	調理食品	1,407	10.3
3	エステティックサービス	616	5.4	エステティックサービス	590	5.6	医療サービス	1,056	7.7
4	健康食品	533	4.6	健康食品	532	5.0	エステティックサービス	661	4.8
5	外食	438	3.8	外食	466	4.4	健康食品	655	4.8

(2) 危害内容

1位は、「皮膚障害」4,030件(29.4%)であり、「化粧品」、「エステティックサービス」、「医療サービス」などに関するものが多い。「化粧品」の998件の増加を含め、前年度(2位、2,669件)から1,361件増加している。

2位は、「その他の傷病及び諸症状^(注6)」3,609件(26.3%)であり、「医療サービス」、「洗濯用洗剤」、「歯科治療」、「健康食品」などに関するものが多く、体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状が多い。前年度(1位、3,092件)から順位は下がったものの、「洗濯用洗剤」の190件の増加を含め517件増加している。

3位は、「消化器障害」2,015件(14.7%)であり、「調理食品」、「健康食品」、「外食」、「飲料」などに関するものが多い。前年度(3位、1,021件)と順位は同じであるが、「調理食品」の918件の増加を含め994件増加している。

4位は、「擦過傷・挫傷・打撲傷」の858件(6.3%)であり、「エステティックサービス」、「自転車」などに関するものが多い。前年度(5位、691件)から167件増加している。

5位は、「熱傷」765件(5.6%)であり、「エステティックサービス」、「医療サービス」、「外食」、「携帯電話」などに関するものが多い。前年度(4位、813件)から48件減少している。(表3)

(注6)「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表3. 危害内容別上位5位の推移

順位	2011年度			2012年度			2013年度		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	皮膚障害	3,853	33.5	その他の傷病及び諸症状	3,092	29.2	皮膚障害	4,030	29.4
2	その他の傷病及び諸症状	3,011	26.2	皮膚障害	2,669	25.2	その他の傷病及び諸症状	3,609	26.3
3	消化器障害	918	8.0	消化器障害	1,021	9.6	消化器障害	2,015	14.7
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	695	6.0	熱傷	813	7.7	擦過傷・挫傷・打撲傷	858	6.3
5	熱傷	690	6.0	擦過傷・挫傷・打撲傷	691	6.5	熱傷	765	5.6

(3) 被害者の年代・性別

危害を受けた被害者の性別は、女性が9,749件(71.2%)、男性が3,624件(26.5%)で、「化粧品」などの件数の増加により、前年度と比べ女性の割合が増加している。

年代別では、前年度と同じく40歳代が2,232件(16.3%)で最も多く、次いで60歳代と70歳以上は同数で2,186件(16.0%)である。以下、50歳代2,053件(15.0%)、30歳代1,695件(12.4%)、20歳代1,095件(8.0%)、10歳未満564件(4.1%)、10歳代470件(3.4%)と続いた。全ての年代で件数は増加している。(表4)

次に、年代別に危害の最も多い商品・役務をみると、10歳未満は「調理食品」176件、10歳代は「調理食品」175件、20歳代は「エステティックサービス」211件、30歳代以降はいずれも「化粧品」であり、30歳代は186件、40歳代は369件、50歳代は459件、60歳代は583件、70歳以上は475件である。

「調理食品」は、どの年代でも件数、順位が大きく上昇し、「化粧品」は 30 歳代以上の年代で件数が大きく増加している。また、「柔軟仕上げ剤」などの「洗濯用洗剤」は、前年度はいずれの年代でも 10 位以内になかったものであるが、40 歳代、50 歳代、60 歳代で 5 位となっている。(表 5)

表 4. 年代別・性別危害件数

年代	男		女		不明		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10歳未満	272	7.5	227	2.3	65	19.9	564	4.1
10歳代	210	5.8	242	2.5	18	5.5	470	3.4
20歳代	249	6.9	844	8.7	2	0.6	1,095	8.0
30歳代	420	11.6	1,269	13.0	6	1.8	1,695	12.4
40歳代	538	14.8	1,692	17.4	2	0.6	2,232	16.3
50歳代	498	13.7	1,549	15.9	6	1.8	2,053	15.0
60歳代	530	14.6	1,653	17.0	3	0.9	2,186	16.0
70歳以上	583	16.1	1,598	16.4	5	1.5	2,186	16.0
不明	324	8.9	675	6.9	220	67.3	1,219	8.9
合計	3,624	26.5	9,749	71.2	327	2.4	13,700	100

表 5. 年代別の上位 5 商品・役務

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満		調理食品	外食	菓子類	飲料	家具類
		176	34	23	21	19
10歳代		調理食品	自転車	化粧品	外食	医療サービス
		175	37	27	22	15
20歳代		エステティックサービス	調理食品	医療サービス	化粧品	外食
		211	141	113	80	59
30歳代		化粧品	医療サービス	調理食品	エステティックサービス	外食
		186	174	167	160	84
40歳代		化粧品	調理食品	医療サービス	エステティックサービス	洗濯用洗剤
		369	188	179	156	78
50歳代		化粧品	調理食品	医療サービス	健康食品	洗濯用洗剤
		459	165	140	95	71
60歳代		化粧品	医療サービス	調理食品	健康食品	洗濯用洗剤
		583	148	141	127	69
70歳以上		化粧品	健康食品	医療サービス	調理食品	家庭用電気治療器具
		475	237	189	99	67
不明		調理食品	化粧品	医療サービス	外食	健康食品
		155	129	88	67	47

2. 「危険情報」の概要

2013年度に収集した「危険情報」は6,903件である（2012年度：4,170件）。

（1）商品等分類別件数

商品等分類別で見ると、1位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」など）2,924件（42.4%）、2位は「住居品」（「電子レンジ類」など）1,551件（22.5%）、3位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」など）875件（12.7%）、4位は「教養娯楽品」（「携帯電話」など）481件（7.0%）、5位は「保健衛生品」（「ヘアケア用具」など）と「土地・建物・設備」（「戸建住宅」など）がともに213件（3.1%）である。（表6）

具体的に商品・役務別で見ると、1位は「調理食品」2,419件（35.0%）であり、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するもの2,211件などにより、前年度（2位、120件）から2,299件増加した。2位は「四輪自動車」563件（8.2%）、3位は「菓子類」155件（2.2%）、4位は「携帯電話」130件（1.9%）、5位は「自転車」111件（1.6%）である。（表7）

表6. 「危険情報」の商品等分類別の上位5位の推移

順位	2011年度			2012年度			2013年度		
	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)
1	住居品	1,288	34.8	住居品	1,374	32.9	食料品	2,924	42.4
2	車両・乗り物	763	20.6	車両・乗り物	940	22.5	住居品	1,551	22.5
3	教養娯楽品	421	11.4	食料品	456	10.9	車両・乗り物	875	12.7
4	食料品	321	8.7	教養娯楽品	421	10.1	教養娯楽品	481	7.0
5	保健衛生品	251	6.8	保健衛生品	190	4.6	保健衛生品	213	3.1
							土地・建物・設備	213	3.1

表7. 「危険情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2011年度			2012年度			2013年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	490	13.2	四輪自動車	655	15.7	調理食品	2,419	35.0
2	化粧品	128	3.5	調理食品	120	2.9	四輪自動車	563	8.2
3	電子レンジ類	89	2.4	携帯電話	108	2.6	菓子類	155	2.2
4	自動二輪車	82	2.2	家具類	96	2.3	携帯電話	130	1.9
5	菓子類	81	2.2	自動二輪車	93	2.2	自転車	111	1.6
				自転車	93	2.2			

（2）危険内容

1位は、「異物の混入」2,845件（41.2%）であり、「調理食品」などに関するものが多い。「調理食品」の2,282件の増加を含め、前年度（3位、481件）から2,364件増加している。

2位は、「過熱・こげる」581件（8.4%）であり、「携帯電話」、「電話関連機器・用品」などに関するものが多い。「電話関連機器・用品」の26件の増加を含め、前年度（5位、451件）から130件増加している。

3位は、「発煙・火花」580件（8.4%）であり、「電子レンジ類」、「四輪自動車」、「電気掃除機類」などに関するものが多い。前年度（2位、499件）から順位は下がったものの、「電子レンジ類」の17件の増加、「携帯電話」の15件の増加などを含め、81件増加している。

4位は、「機能故障」573件（8.3%）であり、「四輪自動車」、「自動二輪車」などに関するものが多い。前年度（1位、611件）から38件減少している。

5位は、「破損・折損」482件（7.0%）であり、「家具類」、「自転車」、「四輪自動車」などに関するものが多い。前年度（4位、455件）から27件増加している。（表8）

表 8. 危険内容別上位 5 位の推移

順位	2011年度		2012年度		2013年度				
	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)			
		3,702 件			4,170 件			6,903 件	
1	発煙・火花	550	14.9	機能故障	611	14.7	異物の混入	2,845	41.2
2	機能故障	472	12.7	発煙・火花	499	12.0	過熱・こげる	581	8.4
3	過熱・こげる	378	10.2	異物の混入	481	11.5	発煙・火花	580	8.4
4	破損・折損	356	9.6	破損・折損	455	10.9	機能故障	573	8.3
5	異物の混入	345	9.3	過熱・こげる	451	10.8	破損・折損	482	7.0

○情報提供先

消費者庁 消費者教育・地方協力課

消費者庁 消費者安全課

内閣府 消費者委員会事務局

(本件問い合わせ先)

商品テスト部：042-758-3165

別 添

<参考資料 上位3商品・役務の概要>

1. 「危害情報」

①化粧品 (2,313件)

「化粧品」は2,313件で、全体に占める割合は16.9%であり、前年度(1位、1,405件)から908件増加している。

性別では、女性が2,162件(93.5%)と9割以上を占めている。年代別では、60歳代が583件(25.2%)で最も多く、次いで70歳以上475件(20.5%)、50歳代459件(19.8%)の順である。

「化粧品」の内訳をみると、「基礎化粧品(全般)」478件(20.7%)、「化粧水」438件(18.9%)、「乳液」242件(10.5%)、「化粧クリーム」226件(9.8%)で約6割を占めている。危害内容は、「皮膚障害」が2,122件(91.7%)と全体の約9割を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」140件(6.1%)、「呼吸器障害」15件(0.6%)、「感覚機能の低下」12件(0.5%)の順である。

<事例>

- ・化粧品店で5年以上同じメーカーの化粧品を購入してきた。美白効果は高額の商品の方が高いだろうと思って使用していたが、腕に白い斑点が出来た。(60歳代・女性)
- ・基礎化粧品のトライアルセットを利用し始めて、使用3日目にまぶた、耳、ほほに赤い発疹が出た。(50歳代・女性)

②調理食品 (1,407件)

「調理食品」は1,407件で、全体に占める割合は10.3%であり、前年度(8位、314件)から1,093件増加している。

性別では、女性が729件(51.8%)、男性が586件(41.6%)となっている。年代別では、40歳代が188件(13.4%)で最も多く、次いで10歳未満が176件(12.5%)、10歳代175件(12.4%)の順である。

「調理食品」の内訳をみると、「冷凍調理食品」1,071件(76.1%)が最も多く、次いで、「弁当」142件(10.1%)、即席みそ汁などの「他の調理食品」72件(5.1%)、「フライ類」27件(1.9%)、「調理パン」22件(1.6%)と続く。危害内容は、「消化器障害」1,059件(75.3%)が最も多く、次いで「その他の傷病及び諸症状」159件(11.3%)、「中毒」50件(3.6%)、「皮膚障害」と「刺傷・切傷」48件(3.4%)の順である。

<事例>

- ・農薬混入で回収されている冷凍食品のうち、クリームコロッケを、12月中旬に自分と3歳の娘が食べた。においや味に異変は感じられなかったが、娘がおう吐と下痢をした。(10歳未満・女児)
- ・元々、卵アレルギーがあったが、マヨネーズ入りおにぎりを購入した。原材料としてマヨネーズを使っていて、卵のアレルギー表示がないため、大丈夫と思っていたが、食べたところ、軽いアレルギー症状が出た。(10歳代・性別不明)

③医療サービス (1,056件)

「医療サービス」は1,056件で、全体に占める割合は7.7%であり、前年度(2位、850件)から

順位がさがったものの、206件の増加である。

性別では、女性が791件(74.9%)と7割を占めている。年代別では、70歳以上が189件(17.9%)で最も多く、次いで、40歳代179件(17.0%)、30歳代174件(16.5%)の順である。

「医療サービス」の内訳をみると、「美容医療」に関するものは467件であり、44.2%を占めている。危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」が546件(51.7%)と半数を占め、次いで、「皮膚障害」253件(24.0%)、「熱傷」51件(4.8%)、「感覚機能の低下」47件(4.5%)の順である。

<事例>

- ・3年前にアトピー性皮膚炎の漢方クリームを処方してもらっていた。ステロイドが入っていたのでリバウンドしてしまった。(30歳代・男性)
- ・美容クリニックからDMが来たので、顔のリフトアップの施術を受けた。顔の腫れ、ひきつりがあり、効果もない。(50歳代・女性)

2. 「危険情報」

①調理食品 (2,419件)

「調理食品」(2,419件)で、全体に占める割合は35.0%であり、前年度(2位、120件)から2,299件増加している。

「調理食品」の内訳をみると、「冷凍調理食品」2,283件(94.4%)が9割を占めており、次いで、「弁当」が39件(1.6%)即席みそ汁などの「他の調理食品」26件(1.1%)、「レトルト調理食品」12件(0.5%)、「フライ類」11件(0.5%)と続く。危険内容は、「異物の混入」の2,389件(98.8%)がほとんどを占めた。

<事例>

- ・農薬が検出された回収対象の冷凍グラタンが2袋ある。2つ入りの1袋を開けて、1つは食べてしまった。
- ・デパートの地下でパック入りの野菜サラダを購入し、自宅で娘が食べたら、野菜の中にプラスチック片が混入していた。

②四輪自動車 (563件)

「四輪自動車」は563件で、全体に占める割合は、8.2%であり、前年度(1位、655件)から92件減少した。

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」395件(70.2%)が最も多く、次いで「軽自動車」140件(24.9%)である。危険内容は、「機能故障」364件(64.7%)が最も多く、次いで「発煙・火花」35件(6.2%)、「破損・折損」34件(6.0%)の順である。

<事例>

- ・普通車のインテリジェントキーが誤作動し3カ月の赤ん坊が車内に閉じ込められた。
- ・外車を購入したが、納車3日目にアイドリングストップした後、急に発進した。ディーラーはプログラムの不具合と言っているが、いつ修理できるかわからない。

③菓子類 (155件)

「菓子類」は 155 件で、全体に占める割合は、2.2%であり、前年度（10 位、73 件）から 82 件増加した。

「菓子類」の内訳をみると、「まんじゅう」35 件（22.6%）が最も多く、次いで「ケーキ」18 件（11.6%）、「チョコレート」15 件（9.7%）、「せんべい」14 件（9.0%）と続く。危険内容では、「異物の混入」98 件（63.2%）が最も多かった。

<事例>

- ・大手メーカー製のまんじゅう 5 個入りパックを購入した。まだ食べていない。新聞報道で、カルキ臭がする商品があることが判明し、自主回収していると知った。メーカーに電話をかけているが全くつながらない。
- ・トリュフチョコレートを食べたら固いものがあつた。口から出してみると 1 センチ位のネジのようなものが入っていた。口の中は傷ついていない。